

2016年度上期決算説明会 主な質疑応答

日時：	2016年11月11日(金) 13:00 ~ 14:30		
場所：	WTCカンファレンスセンター		
出席者：	代表取締役	社長	清水 洋史
	取締役常務執行役員	最高技術責任者(CTO)	前田 裕一
	取締役常務執行役員	不二製油(株)代表取締役	木本 実
	取締役常務執行役員	最高経営戦略責任者(CSO)	酒井 幹夫
	取締役常務執行役員	最高財務責任者(CFO)	松本 智樹

Q. 日本の業績動向

下期の国内油脂と製菓製パン素材の減益要因について教えてほしい。

- A. 上期と同様、数量は引き続き伸ばすことができるとみているが、対前年同期だと前年の水準が高かったことに加え、原料のヤシ・パーム核油等が高くなっていることによる。

Q. ブラジルの業績動向

ブラジルが下期に利益改善する要因は。

- A. ハラルドの得意な市場(フードサービス、業務スーパー等)への特化、数量を維持しながらの柔軟な値上げへの対応、また為替の安定による原価低減およびコストダウンにより、利益率は改善する見込みである。

Q. 大豆たん白の目指す収益

大豆たん白は、今後の高付加価値化、選択と集中等で、どれだけの売上・営業利益を見込んでいくのか。

- A. ここに来て、健康・栄養の分野において販売が伸びてきている。
また、中長期では、たん白食品、フレキシタリアンフードとして大豆由来チーズやパティが若年層に増えてくる。
利益は、セグメントの一つとしての柱を立てていきたい。売上は、2030年に向けて現状から1.5倍や2倍を狙いたい。

Q. チョコレート用油脂とココアバターとの価格相関

ココアバターの価格が落ちてきているが、それにつられてチョコレート用油脂の価格が下がることは、当社にとってリスク要因となるのか。

- A. チョコレート用油脂の価格は、ココアバターに関係なく決定しており、関連性は低くなってきている。

Q. 来期以降の考え方

来期以降の利益成長ドライバー、およびリスクはどこにあるとみているか。

- A. 成長ドライバーは地域ではブラジル、およびチョコレートやチョコレート用油脂といったコア製品の拡販である。
また、中長期でみた大豆事業は、利益成長の余地があるセグメントと期待している。
リスクは、原料価格の高騰、為替の急激な変化、グローバルでの競合等が挙げられる。

Q. 財務戦略

財務面の指標について中期的なターゲットをどのように考えているか、またそれを目指す理由は。

- A. グローバルな競合と戦うにあたり、我々も自社の競争優位につなげるために資金効率を上げていかないといけない。
そのためにも、CCC(キャッシュコンバージョンサイクル)の短縮は重要なKPIである。

Q. 認知度・企業価値向上

プレゼンテーションにある認知度・企業価値の向上について、もう少し詳しく話を聞きたい。

- A. 食に対する問題を発見する、人々の毎日の生活を解決する、というようにBtoBのコミュニケーションを進化させ、ソリューション型のビジネス型に変えていく。

以 上